



平塚市民病院

令和4年度職員行動計画書

★ビジョン★

「持続的な健全経営の下、高度医療、急性期医療及び
政策的医療を担い、患者さんの生命（いのち）を守る診療を行う」

★令和4年度のキー・フレーズ★

新入院患者の増加

「入退院支援の強化による質の向上」

「病院を知ってもらえる情報発信」

「ウィズコロナにおける更なる新入院患者の確保」

令和4年度職員行動計画書

・内科(腎臓内分泌代謝内科)・1	・救命救急センター
・呼吸器内科、アレルギー内科・3	(救急科・救急外科)・・・54
・消化器内科・・・5	・麻酔科・・・57
・循環器内科・・・7	・看護科・・・59
・神経内科・・・10	・ICU・CCU・・・61
・緩和ケア内科・・・12	・薬剤科・・・63
・精神科・・・14	・放射線技術科・・・65
・小児科・・・16	・臨床工学科・・・67
・外科・・・18	・臨床検査科・・・70
・呼吸器外科・・・20	・栄養科・・・72
・消化器外科・・・22	・医療安全管理室・・・74
・血管外科・・・24	・感染対策室・・・77
・心臓血管外科・・・26	・入退院支援・医療相談室
・脳神経外科・・・28	・・・79
・乳腺外科・・・30	・経営企画課・・・81
・整形外科・・・32	・病院総務課・・・83
・形成外科・・・34	・医事課・・・85
・皮膚科・・・36	
・泌尿器科・・・38	
・産婦人科・・・41	
・眼科・・・43	
・耳鼻咽喉科・・・45	
・リハビリテーション科・	
リハビリテーション技術科・47	
・放射線診断科・・・49	
・放射線治療科・・・52	

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	内科	総括責任者	部長 厚川 和裕
—		副責任者	主任医長 唐澤 隆明

I 医療の質と効率の視点

【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供
		地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①開業医と密接に連携をとり、病診連携を推進します。糖尿病性腎症重症化予防事業を推進します。
 ②血液浄化療法(急性・慢性)を充実します。
 ③新型コロナウイルス感染症に対応可能な医療体制を実現します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
開業医との連携による逆紹介の推進	医師	逆紹介率	130.00%	102.20%
糖尿病性腎症重症化予防プログラムを充実させる	医師, 管理栄養士, 看護師, 病診連携室	紹介率	70.00%	40.06%
紹介患者に関する返書の実施	医師	1週間以内返書率	60%	39.2%

II 患者満足の視点

【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さん のために尽くす役務の提供	政策的医療の実現
		患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①慢性腎臓病患者の腎代替療法選択のための支援を拡充します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
腎代替療法選択のための説明・相談の充実	医師, 看護師	療法選択選択指導回数	150回以上	151回
腹膜透析治療を充実させる	医師, 看護師, 管理栄養士	腹膜透析新規導入患者数	1名	—

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	内科	総括責任者	部長 厚川 和裕
—		副責任者	主任医長 唐澤 隆明

Ⅲ 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①入院患者を確保することで、入院稼働額の増を目指します。
②職員のコスト意識向上に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
開業医との連携や新しい治療法による入院患者数の確保	医師	年間新入院患者数	1,570人	1,568人
業務効率化による時間外勤務の削減	医師	1人当たり時間外勤務時間数(月)	月80時間を超えないようにする	36時間12分
適正な入院期間での退院	医師	期間尺度(DPC入院期間Ⅰ、Ⅱの割合)	60%以上	52.20%

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度(やりがい度)の獲得(職場環境、研修・教育、評価と処遇改善)
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

職員向け院内研修会での参加や発表を通して自己の研鑽や他の職員の啓蒙に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
院内研修会での発表	医師	職員向け院内研修会での発表数	3～4回	3回
院内研修会への参加	医師	職員向け院内研修会の1人当たりの参加数	1人年6回	1人4～6回

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献(災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など)
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

予防医療や災害医療等についての研究会、連絡会への参加を通して地域医療機関との連携を強化します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
地域医療機関主催の研究会、連絡会への参加	医師	参加回数	年3回	年2回

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	呼吸器内科	総括責任者	医長 高橋 史成
—		副責任者	

I 医療の質と効率の視点

【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供
		地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①放射線治療科、呼吸器外科との連携により肺癌治療の迅速化に努めます。
②びまん性肺疾患患者に対する適切な医療を提供します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
肺癌カンファレンスの定期開催	医師	治療開始までに要した日数	呼吸器外科/放射線治療科 40日	36日
呼吸器外科との連携強化	医師	肺癌患者紹介数	30件	28件
びまん性肺疾患の症例の受け入れ	医師	入院者数	100例	不明

II 患者満足の視点

【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さん のために尽くす役務の提供	政策的医療の実現
		患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①外来患者さんに快適な受診環境を提供します。
②最先端の治療・検査を組み入れた管理を提供します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
外来待ち時間の短縮	医師	診療時刻－受付時刻	20分	20分
外来生物製剤注射 待ち時間の短縮	医師	診察終了－注射時間	30分	30分
呼気NOやモストグラフを入れた肺機能検査の実施。初診日に実施し早期診断を目指す。	医師	初診日から1か月以内の臨床症状の改善度の評価	60%	60%

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	呼吸器内科	総括責任者	医長 高橋 史成
—		副責任者	

Ⅲ 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①患者を現在以上に大切に思いやりリピーターを増やします。
②呼吸器内科への入院患者数を一定数維持します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
入院患者の確保・維持	医師	年間新入院患者数	260人	255人
肺癌の化学療法	医師	年間入院患者数	80例	80例

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①RST回診を継続します。
②ASTカンファレンスへ参加します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
RST回診患者	医師	患者数	100例	—
ASTカンファレンスへの参加	医師	参加率	90%以上	—

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①びまん性肺疾患研究グループカンファレンス（東海大学医学部附属病院）への参加し、研鑽に努めます。
②学会への積極的に参加し、最新の知見を得るように努力します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
他病院との合同カンファレンスへの参加	医師	出席率	90%以上	—
学会・地方会への参加	医師	出席回数	3回以上	—

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	消化器内科	総括責任者	部長 厚川 和裕
—		副責任者	主任医長 谷口 礼央

I 医療の質と効率の視点

【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供
		地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ① 地域との連携を重視した地域医療体制への貢献、安定した診療報酬を確保します。
(現状、良好な連携数値を達成しているため、現況の継続)

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
開業医との連携による紹介患者の獲得	医師	紹介患者数	1,150人	1,108人
開業医との連携による逆紹介の推進	医師	逆紹介患者数	1,750人	1,731人

II 患者満足度の視点

【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現
		患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ① 診療待ち時間を短縮します。
② 高度な医療を提供します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
医師の業務効率改善	医師	患者1人当たりの平均診察待ち時間	セット入力などの充実	—
ESD/ERCP の処置数増加(後述参照)	医師	患者1人当たりの平均診察待ち時間	(後述参照)	(後述参照)

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	消化器内科	総括責任者	部長 厚川 和裕
—		副責任者	主任医長 谷口 礼央

Ⅲ 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

- ① 医療点数に対する若手の教育を行い、診療単価の向上を図ります。
- ② 処置件数の増加を図ります。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
適正な入院期間での退院	医師、看護師、退院支援室	期間尺度(DPC入院期間Ⅰ、Ⅱの割合)	60%	55.5%
開業医との連携による入院患者の確保	医師	新入院患者数	1,357人	1,237人
ERCP処置数の増加(現状当該医療圏 第2位の件数を実施している)	医師	20件増加	384件	364件
ESD処置数の増加(2018-2021連続で関東圏約30位の件数を実施している)	医師	10件増加	194件	184件

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度(やりがい度)の獲得(職場環境、研修・教育、評価と処遇改善)
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ① 更なる教育体制の拡充を図ります。
- ② 救急業務などの自科以外の職務について、一人当たりの負荷を軽減します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
専門医資格の取得励行	医師	該当年時における専門医資格の取得	同右。	消化器病専門医、内視鏡専門医などの取得
各医師内視鏡手技の向上	医師	ERCP、ESDなどの内視鏡手術の習熟	上記内視鏡件数増加により達成を目指す	R2年度の処置件数+10%(R3実績では達成済み)
消化器内科医の補充	医師	医師+2人により、一人当たりの業務量の軽減	同左(R4年度達成済み)	—

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献(災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など)
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ① 地域救急医療を支えます。
- ② 開業医との連携します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
地域救急への貢献	医師	三次救急への貢献	同右	内科救急対応、当直業務などへの対処
開業医との連携	医師	クロスピッチ運用	クロスピッチへの対応など(本年も当科で対応)	クロスピッチへの対応等(全て当科で対応)

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	循環器内科	総括責任者	部長 高木俊介
—		副責任者	

I 医療の質と効率の視点

【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供
		地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①循環器救急疾患(特に急性心筋梗塞)診療の充実に努めます。
- ②近隣医療機関との連携強化、役割の明確化に努めます。
- ③医療効率の人的・時間的・経済的向上を図ります。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
開業医との連携による逆紹介の推進	医師	逆紹介率	200%	301.81%
急性心筋梗塞、急性期診療体制の充実	医師、看護師、ME、放射線科技師	症例数	80件	78件
働き方改革に基づき、医師業務のタスクシフトを取り入れます。	医師、看護師、ME、放射線科技師	時間外勤務時間数	80時間/月以内	1人当たり46時間42分/月
クリニカルパス見直し等による入院期間の短縮に努めます。	医師、その他多職種	入院期間尺度の増加	65%	60.5%

II 患者満足度の視点

【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現
		患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①市民病院に対する市民の評価向上を図ります。
- ②高齢化に伴う疾患増加率の高い心不全患者の診療満足度向上に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
医師・心不全認定看護師によるコラボレーション外来を開設し、対象患者を増やします。	医師・心不全認定看護師	対応患者数	11人/月 132人	10人/月 120人
常勤医の緩和医療研修会への参加	医師	参加人数	2人	0人

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	循環器内科	総括責任者	部長 高木俊介
—		副責任者	

Ⅲ 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①紹介患者、救急患者など新入院患者増加に努め、入院稼働額の増加を目指します。
②職員のコスト意識の向上に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
紹介患者獲得のための開業医訪問	医師、事務	開業医訪問件数	12件/年	0回(医師同伴)
救急搬送患者受け入れによる重症患者確保	医師	救急搬送患者受入数	265人	261人
PCI件数(緊急症例・待機症例)の増加	医師	年間PCI件数	150～200件	123件
新入院患者増加を目的とした広報活動(市民向け講演会、市広報誌への執筆、ホームページ改変など)	医師、事務	講演数、執筆数など	2回	0回
諸取り組みによる紹介率アップ	医師、事務	紹介率	85%	83.97%

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度(やりがい度)の獲得(職場環境、研修・教育、評価と処遇改善)
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①職員の能力向上と病院経営の理解に努めます。 ②大学学位取得のための研究日確保に努めます。
③これまで不十分であった有給休暇取得を推進し、職員満足度向上に努めます。
④専門医取得を奨励し、学会での格上げを目指します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
学会・院外研修会への参加	医師	参加回数	各人3～4回	—
有給休暇取得	医師	有給休暇取得日数	最低5日間	1人平均3.75日 (R4.3中旬まで)
CVIT研修関連施設から研修施設への格上げ	医師	PCI症例数(200症例以上)	150～200件	123件

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	循環器内科	総括責任者	部長 高木俊介
—		副責任者	

V 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①論文、学会発表などの学術活動の充実を図ります。
- ②将来の医療の担い手である学生教育に貢献します。
- ③市民の健康・医療に関する関心を高めるのに貢献します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
論文・学会発表数	医師	発表数	2回	1回
学生実習の受入数	医師	受け入れ学生数	3人	2人
市民向け講座の開催	医師	開催回数	1～2回	0回

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	神経内科	総括責任者	部長 田川朝子
—		副責任者	

I 医療の質と効率の視点

【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供
		地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

地域の病院、開業医との連携により、脳梗塞をはじめ神経内科領域の疾患を幅広く診療していくよう努めます。

	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
脳卒中ホットラインの開設	神経内科、脳外科 医師	脳卒中ホットラインの 開設	開設	

II 患者満足度の視点

【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さん のために尽くす役務の提供	政策的医療の実現
		患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①入院診療の充実をはかります。
②職員のコスト意識への向上にとりくみ、コスト削減をめざします。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
脳卒中ホットライン、救急からの急性期患者 の積極的な入院受入れ	医師	新入院患者数	年間200人以上	84人

III 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

専門外来での多発性硬化症、視神経脊髄炎診療の更なる充実をめざします。認知症加算が継続してとれるよう、診療体制を、精神科との連携により、充実させます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
地域の非専門医への啓蒙活動	医師	患者紹介者数	300人	255人
当院看護師やSW、など他職種スタッフとの情 報交換、カンファレンスを行います	医師	カンファレンス	年2回	0回

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	神経内科	総括責任者	部長 田川朝子
—		副責任者	

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

職員の能力向上と病院経営の理解に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
学会、院外研修会への参加	医師	参加回数	年一人当たり3回	年一人当たり4回以上
学会、講演会での実際の発表の機会をつくり出す	医師	発表回数	一人当たり年1回以上	総合年10回以上

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

学術活動の充実を図ります。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
論文作成を積極的に行います	医師	作成本数	2本以上	0本

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	緩和ケア内科	総括責任者	部長 高木 俊介
—		副責任者	看護科長代理 大津 聡美

I 医療の質と効率の視点

【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供
		地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①緩和ケアを必要とする患者さんを積極的に拾い上げ、多職種からなるチームアプローチで質の高い緩和ケアを実現します。
 ②患者さんが気軽に相談できる窓口(がん相談支援センター)の充実を図ります。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
「苦痛のスクリーニング」の実施	医師、看護師、薬剤師	実施件数	1,800件	1,684件
がん相談支援センター	がん専門相談員	実施件数	210件	198件
多職種での合同カンファレンス(緩和ケア委員会において)	医師、看護師、薬剤師、管理栄養士	実施件数	12件	10件

II 患者満足の視点

【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現
		患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①患者さんひとりひとりの苦痛や悩み(身体的、精神的、社会的、スピリチュアル)を和らげる関わりをします。
 ②がん患者会等、患者さん同士が医療者との安全に語り合える場を提供します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
緩和ケアチームでのカンファレンス/回診	医師、看護師、薬剤師、管理栄養士	実施回数	週4回	週4回
がん患者の会「なでしこの会」開催	医師、看護師、薬剤師、管理栄養士	開催回数	年3回(web)	0回
緩和ケア週間(相談、啓発イベント)の開催	医師、看護師、薬剤師、管理栄養士	開催回数	年1回	0回

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	緩和ケア内科	総括責任者	部長 高木 俊介
—		副責任者	看護科長代理 大津 聡美

Ⅲ 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①緩和ケア内科の診療依頼件数の増加を目指します。
②がん診療に携わるすべての医師が「緩和ケア研修会」を受講し、がん性疼痛緩和指導管理料を算定します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
入院緩和ケア診療加算(390点)	医師、認定看護師	算定患者数	1,200件	1,060件
癌性疼痛緩和指導管理料(200点)	医師	算定患者数	200件	193件

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①緩和ケアチームを中心に病棟でのカンファレンス、情報共有し、病棟での緩和ケアの充実を図ります。
②病棟での疾患に沿った勉強会を実施します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
病棟おしかけ勉強会の実施	PCT、病棟看護師	実施回数	8回	7回

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

関連学会へ積極的に参加し、院内取組を発表します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
関連学会参加/発表	医師	回数	2回	0回

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	精神科	総括責任者	科医長 森長 修一
—		副責任者	

I 医療の質と効率の視点

【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供
		地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

院内他科との連携を強化し、入院患者のせん妄発症予防に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
せん妄対応マニュアルの改訂	医師、看護師	マニュアルの改訂状況	完成	なし
マイスリーの院内採用の中止	医師	マイスリーの削除	達成	なし

II 患者満足度の視点

【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現
		患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

患者さんやその家族に分かりやすい情報発信を行います。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
せん妄に関する説明資料の改訂	医師、看護師	資料の改訂状況	完成	なし

III 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

コスト意識向上に資する取組により、加算の取得に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
認知症サポートチームの結成	医師、看護師、PSW、CP	認知症ケア加算の算定	算定開始	なし

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	精神科	総括責任者	科医長 森長 修一
—		副責任者	

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

医療知識及び技術習得に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
院内研修会への参加	医師、看護師、PSW、CP	参加回数	1人当たり年6回	—
学会、院外研修会への参加	医師、看護師、PSW、CP	参加回数	1人当たり年3回	—

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

学術活動の充実を図ります。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
学会研究発表	医師、看護師、PSW、CP	発表数	年2回	年1回

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	小児科	総括責任者	部長 福島 直哉
—		副責任者	

I 医療の質と効率の視点

【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供
		地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①質の高い高度医療を提供するため、紹介患者を中心とした診療を展開します。
- ②小児救急・周産期救急医療維持のため必要な小児科医を確保します。
- ③産科と連携し、地域の産婦人科開業医からの新生児・母体搬送を積極的に受け入れます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
紹介患者獲得のための開業医との連携	医師	紹介数	1,000人	982人
開業医への逆紹介の推進による外来業務の効率化	医師	逆紹介数	300人	287人
小児救急・周産期救急医療体制維持のため必要な小児科医の確保	医師	小児科医師数 (病院長を除く)	10人	8人

II 患者満足の視点

【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さん のために尽くす役務の提供	政策的医療の実現
		患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①24時間、365日小児・新生児の受け入れに努力します。
- ②小児病棟・NICU・GCUにぬくもり空間を作ります。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
小児救急・周産期救急医療体制のため必要な小児科医の確保	医師	小児科医師数 (病院長を除く)	10人	8人
クリスマス会などの各種イベントの開催	医師・看護師・保育士	イベント・読み聞かせ 開催数	2回	0回

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	小児科	総括責任者	部長 福島 直哉
—		副責任者	

Ⅲ 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

空床を減らし病床を有効に活用します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
予定入院増加による空床の有効活用	医師	予定入院数	150件	175件
新入院患者数の増加	医師	新入院患者数	796人	705人

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

職員の能力向上と病院経営の理解に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
学会、院外研修会への参加	医師	参加回数	1人あたり年3回	1人あたり年1.5回

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

論文・発表などの学術活動の充実を図ります。市民の健康・医療に関する関心を高めるのに貢献します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
学会研究発表	医師	発表数	年3回	年2回
小児科に関心のある学生の実習受入	医師	学生実習受入数	3人	2人
市民・患者サービスの向上のため、市民向け講座の開催	医師	市民向け院内講座の開催回数	2回	2回

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	外科	総括責任者	部長 高野 公徳
—		副責任者	

I 医療の質と効率の視点

【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供
		地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①手術（高度な医療）が必要な患者に24時間365日、一件でも多く質の高い外科手術を提供します。
- ②双方で顔の思い浮かぶ病診連携により入院期間の短縮および外来診療の縮小を目指します。
- ③多職種連携チームの活動を通じてSSIの減少に取り組みます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
技術習得等による手術実行数の増	医師	消化器外科、乳腺外科、血管外科、呼吸器外科、救急外科の手術件数	1,200件/年	1,153件/年
信頼関係の強い病診連携先数を得るための開業医訪問回数増	医師、事務職	訪問回数	2回/月 以上	5回/年
SSI(術後創感染)発生率の減	医師、事務職	消化器外科でのSSI発生率	5.0%未満	4.4%
退院時診療情報提供の積極的な実施	医師	消化器外科、乳腺外科、血管外科、呼吸器外科、救急外科全体での退院時診療情報提供書の作成率	40% 以上	34.6%

II 患者満足度の視点

【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現
		患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

分かりやすい説明により、患者さんが安心して受診できる体制を整えます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
ホームページの充実	医師、薬剤師	外科ホームページの更新回数	3回/年	1回/年
術式・疾患に対応したICフォームの作成	医師	ICフォームの総数	10種類 以上	3種類

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	外科	総括責任者	部長 高野 公德
—		副責任者	

Ⅲ 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

収入確保と支出削減に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
手術を数多く行うことによる診療稼働額増及び診療単価増	医師	消化器外科、乳腺外科、血管外科、呼吸器外科、救急外科の手術件数	1,200件	1,153件
サージレーンの解析結果を業者、事務職と協力して分析し、手術に関する支出を減少させる	医師・事務職・業者	実施	実施	実施

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

外科専攻医およびスタッフの専門医資格の取得を積極的に支援します

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
教育的カンファレンスの充実	医師	実施	3回/週	3回/週
新規専門医資格の取得	医師	取得件数	3件/年	4件/年

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

論文・発表などの学術活動の充実を図ります。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
論文発表	医師	発表数	5編/年	10編/年
市民向け講座の開催	医師	開催回数	2回/年	0回/年

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	呼吸器外科	総括責任者	須賀 淳
—		副責任者	

I 医療の質と効率の視点

【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供
		地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①地域連携により外来診療効率化や紹介患者の確保に努めます。
②業務の見直しや教育などにより入院診療の効率化に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
開業医へのチラシ配布や訪問などによる紹介患者の確保。肺癌検診読影会での指導。	医師	紹介率	前年度比5%増	131.25%
患者紹介による手術件数の確保	医師	手術件数	60件	61件
クリニカルパスの導入	医師、看護師、事務職	パスの作成、運用	1	0

II 患者満足の視点

【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さん のために尽くす役務の提供	政策的医療の実現
		患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

診療の質を向上することで患者満足度を改善します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
平均在院日数の短縮による患者負担の軽減	医師	平均在院日数	前年度比5%減	6.5日
術後合併症による再手術の減少	医師	術後再手術件数	0件	0件

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	呼吸器外科	総括責任者	須賀 淳
—		副責任者	

Ⅲ 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

病床稼働率の向上や適切な医材使用による収入確保に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
在院日数の最適化などによる入院診療単価の増加	医師	入院診療単価	前年度比 5%増	147,855円
地域連携に基づく入院患者数の確保	医師	新入院患者数	110人	105人
手術毎の自動縫合器超過使用本数の削減	医師	自動縫合器超過使用本数	前年度比 5%減	13本
高額医材費使用の見直し、安価で質の良い医材導入検討	医師	医材費	前年度比 5%減	

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

前期後期研修医向けの勉強会、病棟看護師向けの勉強会を開催します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
前期後期研修医向けの勉強会	医師	手術・処置などの勉強会	5回/年	—
看護師向けの勉強会	医師	手術・処置・ドレーン管理などの勉強会	1回/年	—

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

学術活動と診療の両立を目標とします。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
学会発表	医師	学会発表回数	3回/年	2回/年
論文発表	医師	論文発表回数	1回/年	0回/年

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	消化器外科	総括責任者	平田 玲
—		副責任者	

I 医療の質と効率の視点

【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供
		地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

より多くの症例に対応し、医療の質の向上を図ります。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
一般消化器外科手術症例数の増加	医師	手術症例数	800件	786件
ロボット支援下直腸手術の導入	医師	手術症例数	3件	0件

II 患者満足度の視点

【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現
		患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

より詳細な情報発信により、安心して受診していただける環境を構築します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
病院ホームページの充実	医師	内容の充実	より詳細な記載	詳細な記載

III 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

多くの症例の手術に対応することで、患者を確保するとともに、収入増を目指します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
手術症例の増加による入院診療単価の増	医師	入院診療単価	前年度比5%増	108,252円
新入院患者数の増加	医師	新入院患者数	750人	718人

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	消化器外科	総括責任者	平田 玲
—		副責任者	

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

職員の能力向上と病院経営への反映に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
学会への参加	医師	参加回数	1人あたり年3回以上	1人あたり年1～2回

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

論文・発表などの学術活動の充実を図ります。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
論文発表	医師	発表回数	年3編	年2編
学会発表	医師	発表回数	年20回	年16回

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	血管外科	総括責任者	科医長 林 啓太
—		副責任者	

I 医療の質と効率の視点

【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供
		地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①低侵襲治療を積極的に導入し、在院日数削減を目指します。
- ②効率的な業務遂行のため、業務内容の定型化を目指します。
- ③チーム医療を強化します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
DPC入院期間Ⅱまでの退院	医師	期間尺度(DPC入院期間Ⅱまでの退院率)	80%以上を維持	84.2%
クリニカルパスの導入	医師・看護師	クリニカルパス実施数	50件	40件
他科との連携	医師	手術症例数	60%	52.23%

II 患者満足の視点

【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さん のために尽くす役務の提供	政策的医療の実現
		患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①患者さんに最新の情報を分かりやすく発信します。
- ②患者満足度向上を目指します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
手術説明文書・同意書の見直し	医師	見直した資料の種類	全種類	0種類
外来の待ち時間縮小	医師	外来待ち時間	30分以内	19分
血管外科・血管センターホームページの拡充	医師・経営企画課	更新頻度	1回以上/半年	0回

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	血管外科	総括責任者	科医長 林 啓太
—		副責任者	

Ⅲ 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①従来の手術件数を維持します。
②診療科稼働額維持、査定率減少による増収を目指します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
手術件数の維持	医師	手術件数	200件以上	224件
診療科稼働額の維持	医師	診療科稼働額(入院)	150,000,000円以上	125,727,837円
詳細な症状詳記記載による査定率の減少	医師	査定率	1次査定 1%以下	0.64%

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①他職種の知識と技術向上を目指します。
②専門分野に関する最新の知見を積極的に獲得していきます。
③適切かつ効率的な休暇が取れる職場環境を目指します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
他職種向けの勉強会の開催	医師	開催回数	2回以上	0回
学会への参加	医師	参加回数	2回以上	1回
有給休暇の取得	医師	取得日数	10日以上	14日

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①開業医との地域連携を強化します。
②当院での活動内容を積極的に体外へ報告して参ります。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
開業医への訪問	医師、事務	訪問件数	3件以上 (近隣透析クリニックなど)	0件
学会、講演会での発表	医師	発表回数	2回以上	0回

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	心臓血管外科	総括責任者	部長 笠原 啓史
—		副責任者	

I 医療の質と効率の視点

【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供
		地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①紹介患者獲得のため、循環器内科医との病診連携の継続と新規開拓を行います。
 ②低侵襲手術(大動脈ステントグラフト内挿術、低侵襲心臓手術MICS)を提供します。
 ③心臓大動脈疾患の緊急症例(急性期・救急医療)に対応します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
紹介患者獲得のため病診連携の継続	医師	紹介入院件数	60件	59件
低侵襲胸部大動脈手術およびMICS	医師	手術件数	10件	6件
心臓大動脈疾患の緊急症例に対応	医師	手術件数	15件	19件

II 患者満足の視点

【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さん のために尽くす役務の提供	政策的医療の実現
		患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①患者さんの負担を軽減する治療を目指します。
 ②地域の広報誌へ掲載します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
患者さんに分かりやすい手術説明	医師	苦情件数	0件	0件
親切かつプライバシーに配慮した病棟回診	医師、看護師	感謝・お褒めの言葉	2件	3件
地域情報誌への掲載依頼	医師	掲載数	1件	0件

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	心臓血管外科	総括責任者	部長 笠原 啓史
—		副責任者	

Ⅲ 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①紹介患者獲得のため、循環器内科医との病診連携の継続と新規開拓を行います。
 ②輸血、点滴、抗生剤などについて、必要最低限の使用を目指します。
 ③内視鏡併用低侵襲心臓手術(MICS)を導入し、新規症例の獲得を目指します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
紹介患者獲得のため病診連携の継続	医師	紹介入院患者数	60人	59人
無駄な薬剤使用の是正	医師	査定率	0.25%以下	0.21%
新入院患者数の増加	医師	新入院患者数	150人	121人

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

職員の能力向上のための機会を提供します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
研修医のための心臓手術シミュレーション	医師	当科ローテート研修医	1人	0人
心臓血管外科のドライラボによる手術シミュレーション	医師	受講人数（延べ人数）	6人	3人

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①アカデミックサーजनとして業績を構築します。
 ②近隣病院循環器科との連携会・研究会などを開催します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
論文数	医師	論文数	1編	1編
学会発表	医師	学会発表数	5回	7回
他院の循環器科との連携会・研究会など	医師	研究会実施数	3回	2回

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	脳神経外科	総括責任者	部長	中村明義
—		副責任者	医長	黒島義明

I 医療の質と効率の視点

【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供
		地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①地域医療支援のため、紹介及び逆紹介を積極的に行います。
②重症患者の診療を中心に行うため、手術室の有効利用を図り、手術件数の増加に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
開業医との連携による紹介の推進	医師	紹介数	160人	145人
開業医との連携による逆紹介の推進	医師	逆紹介数	390人	372人
紹介、救急症例の増加による手術件数の増加	医師、看護師	手術件数	200件	164件

II 患者満足度の視点

【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さん のために尽くす役務の提供	政策的医療の実現
		患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

重症患者を受け入れ、いつでも緊急手術に対応可能な体制を整備します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
緊急手術件数の増加	医師、看護師	緊急手術件数	150件	109件

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	脳神経外科	総括責任者	部長	中村明義
—		副責任者	医長	黒島義明

Ⅲ 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①入院患者を確保することで入院稼働額の増を目指します。
②職員のコスト意識向上に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
新入院患者数の増加	医師	新入院患者数	350人	342人
重症患者確保による入院診療単価の増加	医師	年間入院診療単価	90,000円	79,194円
1日当たり平均入院患者数	医師	1日当たり平均入院患者数	18人	16.6人
DPC入院期間Ⅱまでの退院	医師、看護師、MSW	期間尺度(DPC入院期間Ⅱまでの退院率)	80.00%	62.7%
業務の効率化による時間外勤務の削減	医師	1人当たり時間外勤務時間数	60時間	1人当たり63時間18分/月

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

専門研修基幹施設との連携強化を行います。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
専門研修基幹施設との研修会への参加	医師	参加数	年3回/科	3回

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

論文・発表など学術活動の充実を図ります。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
論文数	医師	論文数	3編/科	4編
研究発表	医師	発表数	3回/科	1回

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	乳腺外科	総括責任者	部長 米山公康
—		副責任者	

I 医療の質と効率の視点

【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供
		地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

対外的活動を増進します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
市主体乳がん検診の実施・協力	医師	実施件数	可能な限り多く	596件
退院時診療情報提供書作成の徹底	医師	作成件数	前年度を上回る	38件

II 患者満足の視点

【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現
		患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

媒体の積極的活用により、患者さんに安心して受診していただける体制を整備します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
日曜乳がん検診の実施	医師・技師・看護師	実施回数・受診者数	2回	2回
ホームページの充実(乳腺センターも含めて)	医師	改訂回数	2回	1回

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	乳腺外科	総括責任者	部長 米山公康
—		副責任者	

Ⅲ 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

医療資源を効率的に活用します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
化学療法の実施	医師	化学療法施行数	前年度を上回る	758件
新規乳癌手術件数の増加	医師	手術件数	前年度を上回る	98件
全麻下手術の増加	医師	手術件数	前年度を上回る	106件
新入院患者数の増加	医師	新入院患者数	141人	119人

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

院内カンファレンスを実施・参加します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
院内術前画像カンファレンスの実施	医師・技師	実施回数	毎週1回	毎週1回
院内乳腺病理カンファレンスの実施	医師・技師	実施回数	毎月1回	毎月1回(12回)

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

学術活動を推進します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
学会発表	医師	発表数	2回	1回
論文発表	医師	論文数	2本	3本

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	整形外科	総括責任者	部長 加藤 創太
—		副責任者	

I 医療の質と効率の視点

【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供
		地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①脊椎・関節・手の外科領域で専門性の高い手術医療を提供します。
②救命救急センター・麻酔科・手術室と連携し、適確かつ迅速な急性期医療を提供します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
手術件数増加による手術室の適正運用の推進	医師	整形外科手術件数	1,100件	1,038件

II 患者満足度の視点

【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さん のために尽くす役務の提供	政策的医療の実現
		患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

患者さんにとって安心できる診療体制を整えます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
業務の効率化による外来待ち時間の短縮	医師、外来看護師、事務職	患者一人あたりの平均待ち時間	30分以内	22分

III 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

専門性の高い手術治療および急性期治療を積極的におこない、入院患者を確保すると共に収益の増加を図ります。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
開業医および救命救急センターとの連携による新入院患者の確保	医師	年間新入院患者数	1,141人	1,047人

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	整形外科	総括責任者	部長 加藤 創太
—		副責任者	

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

職員の能力向上と病院経営の理解に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
学会、院外研修会への参加	医師	参加回数	1人当たり年3回	—

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

発表などの学術活動の充実を図ります。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
学会研究発表	医師	発表数	年4回	4回

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	形成外科	総括責任者	部長	杉木 正
—		副責任者	医師	平尾 高行

I 医療の質と効率の視点

【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供
		地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

クリニカルパスの作成、他診療科との連携強化により、診療の充実を図ります。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
眼瞼下垂に対するクリニカルパスの導入	医師、看護師、事務	パス適用件数の増加	20件	0件
乳癌摘出後の乳房再建の開始	医師	手術件数	5件	0件

II 患者満足度の視点

【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現
		患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

患者さんにわかりやすい情報の提供を行います。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
SMILEへの寄稿	医師	寄稿数	1件	0件

III 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

入院数の増加を図り、経営に貢献致します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
新入院患者数の増加	医師	新入院患者数	120人	76人

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	形成外科	総括責任者	部長	杉木 正
—		副責任者	医師	平尾 高行

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

学会参加を通して能力向上を図ります。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
学会参加数の増加	医師	学会参加数	3回	—

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

論文執筆を通じて、研究活動を行います。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
論文執筆を通じて、研究活動を行います。	医師	論文発表数	1本	1本

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	皮膚科	総括責任者	科医長 栗原 佑一
—		副責任者	

I 医療の質と効率の視点

【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供
		地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

病院として求められる、質の高い、適切な医療提供を目指します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
紹介患者を増やす	医師	新入院患者数	215人	171人
周辺クリニックや病院への広報活動(訪問)	医師・地域連携室	クリニック訪問	10件/年	1件

II 患者満足度の視点

【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現
		患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

検査や病院で求められる治療に重点を置きます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
日帰り手術 待機期間の短縮	医師、看護師	手術待機期間	1ヶ月	1.5ヶ月

III 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

職員のコスト意識の向上と業務効率化によるコスト削減により単価の上昇を目指します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
スタッフミーティングによるコストへの意識を高める	医師、看護師、事務	ミーティング実施回数	2ヶ月に1回	5回
入院治療のパス化を促進する	医師、看護師	パス患者数	45%	30.81%
新入院患者数の増加	医師	新入院患者数	215人	171人

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	皮膚科	総括責任者	科医長 栗原 佑一
—		副責任者	

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①知識の充実と技能向上のため、学会への参加や他病院見学を積極的に行います。
②院内研修会に積極的に参加します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
院内研修会への参加	医師	参加回数	年 6回/人	—
学会、講演会への参加	医師、看護師	参加回数	年 2回/人	15回

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

論文、学会発表などの学術活動の充実を図ります。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
学会発表	医師	学会発表数	8回/年	9回/年
論文作成	医師	論文数	4編/年	7編/年

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	泌尿器科	総括責任者	科医長 澤田 康弘
—		副責任者	

I 医療の質と効率の視点

【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供
		地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①開業医との連携を強化します。
- ②最先端の手術を導入し、実施します。
- ③外来手術を増加します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
紹介患者獲得の為に連携(外来協力)	医師	外来協力回数	週2回	週1回
手術症例の相互紹介	医師	逆紹介患者数	300人	348人
手術件数の増加	医師	手術件数	500件	486件
外来手術の増加	医師	手術件数	60件	61件
手術支援ロボットの導入・施行	医師	ロボット支援手術の実施	20件	0件

II 患者満足の視点

【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現
		患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①患者さんに快適な診療環境を提供します。
- ②患者さんにわかりやすい情報発信をします。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
外来待ち時間の短縮	医師	外来待ち時間	前年度比10%短縮	22分
わかりやすいホームページの作成	医師	ホームページ見直し回数	2回	0回

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	泌尿器科	総括責任者	科医長 澤田 康弘
—		副責任者	

Ⅲ 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①適切な入院加療を行い、過剰医療を抑制します。
②職員のコスト意識を向上します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
新入院患者の確保	医師	年間新入院患者数	660人	503人
合併症のない手術、効率の良い病棟運営	医師	入院診療単価	前年度比5%増	88,622円
適正入院期間での退院	医師	入院期間Ⅱまでの退院（割合）	90%	92.6%
業務の効率化による時間外勤務の抑制	医師	1人あたりの時間外勤務時間数（月）	60時間以内	1人当たり63時間30分/月

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①職員の能力を向上します。
②職員のモチベーションを向上、維持します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
学会・研究会への参加	医師	参加回数	1人あたり年2回	1人あたり年2回
有給休暇の取得	医師	休暇取得日数	1人あたり年10日以上	1人当たり11.75日 (R4.3中旬まで)

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	泌尿器科	総括責任者	科医長 澤田 康弘
—		副責任者	

V 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①論文や学会など学術活動を充実します。
②市民やクリニックへの啓蒙活動を行います。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
学会発表	医師	発表数	年3回	年4回
論文発表	医師	発表数	年1回	年0回
市民向けの講座開催	医師	開催回数	年2回	年0回
クリニック向けの講座開催	医師	開催回数	年2回	年0回

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	産婦人科	総括責任者	部長 笠井 健児
—		副責任者	部長 藤本 喜展

I 医療の質と効率の視点

【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供
		地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①市内診療所、県内病診との連携を主導します。
- ②効率的な業務に努めます。
- ③ロボット手術の稼働に向けて準備を進めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
平塚市産婦人科医会の運営(会長職)	医師	紹介率	78%	74.79%
神奈川県産科婦人科医会参加 (総務部・周産期部)	医師	紹介率	78%	74.79%
HP改訂、チラシ発行などで情報発信し、紹介患者を確保	医師	紹介率	78%	74.79%

II 患者満足の視点

【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さん のために尽くす役務の提供	政策的医療の実現
		患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①快適な出産環境を提供します。
- ②新型コロナウイルス関連分娩に対応いたします。
- ③わかりやすい情報発信に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
母体搬送の積極的受け入れ	医師・助産師	受け入れ患者数	30件	24件
周産期救急の受け入れ	医師・助産師	受け入れ患者数	320件	300件
婦人科救急の受け入れ	医師・助産師	受け入れ患者数	40件	39件
手術説明書等の内容見直し	医師	見直した書面の種類	10種	なし

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	産婦人科	総括責任者	部長 笠井 健児
—		副責任者	部長 藤本 喜展

Ⅲ 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①新たな入院患者の確保により、医業収益の向上を図ります。
②職員のコスト削減意識を賦活し、コスト削減に務めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
病診連携による新入院患者の確保	医師	新入院患者数	1,200人/年	1,005人/年
腹腔鏡下子宮全摘術、悪性腫瘍手術実施推進による入院診療単価の増加	医師	入院診療単価	85,000円	79,885円
時間外勤務時間の削減	医師	平均時間外勤務時間数	40時間	47.2時間

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①所属を越えたりエゾン教育で、新人職員の能力向上を支援します。
②病院経営の理解に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
学会、研修会への参加（リモート環境下）	医師	参加回数	5回	3～5回
新人指導を目的とした勉強会	医師・看護職	開催回数	3回	2回

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①学会発表、論文投稿など、学術活動の充実を図ります。
②医学生の臨床実習を積極的に受け入れます。
③健康、医療に関する市民の関心にお応えします。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
学会発表	医師	発表数	3回	2回
論文投稿	医師	投稿数	3編	0編
当科志望医学生の臨床実習受け入れ	医師	受け入れ学生数	3名	2名
市民向け講座の開催（開催形式次第）	医師	開催回数	2回	0回

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	眼科	総括責任者	部長 白石 亮
—		副責任者	

I 医療の質と効率の視点

【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供
		地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

開業医との連携を深め、地域医療の充実を目指します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
紹介患者獲得のため、医師会眼科部会への参加等	医師	参加回数	1～2回	0回
開業医との連携による逆紹介の推進	医師	逆紹介率	140%	120.64%

II 患者満足度の視点

【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現
		患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①診療、検査、手術待ち時間の短縮に努め、患者満足度向上に努めます。
②白内障手術の入院日数を多様化して、患者満足度向上に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
1泊2日の実施率	医師	1泊2日入院の症例割合	70%	65.7%

III 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

手術患者を確保することで、入院稼働額増を目指します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
新入院患者の増加	医師	新入院患者数	250人	179人

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	眼科	総括責任者	部長 白石 亮
—		副責任者	

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

外来スタッフの能力向上に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
科内勉強会・カンファレンス	医師、看護師、視能訓練士等	開催数	月1回	2回

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

眼科医療に関心のある学生の育成に貢献します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
眼科医療に関心のある学生の受入れ	医師、視能訓練士	受入人数	1人	0人

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	耳鼻咽喉科	総括責任者	部長	杉木正
—		副責任者	医長	野口勝

I 医療の質と効率の視点

【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供
		地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

近隣医院との連携を深め、病診の機能分化を推進します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R2実績
開業医との連携による紹介患者の確保	医師	紹介率	70%	73.71%(356人/483人)
開業医との連携による逆紹介の推進	医師	逆紹介率	60%	69.15%(334人/483人)

II 患者満足度の視点

【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現
		患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

投薬、手術以外の方法で患者さんのQOLを上げる為の取り組みを行います。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
耳鼻科リハビリテーションに関する説明書の作成	医師	説明書作成件数	2件	0件
補聴器外来の設置	医師	補聴器外来の開始	補聴器外来の開始	なし

III 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

収入確保による健全な病院経営に寄与します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
入院患者の確保	医師	新入院患者数	170人	0人
手術患者の確保	医師	全身麻酔手術件数	70件	0件

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	耳鼻咽喉科	総括責任者	部長	杉木正
—		副責任者	医長	野口勝

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①院内外の研修会に積極的に参加し自己研鑽を行います。
- ②院外への研修会に対しては積極的に休暇を取得し参加します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
院内外の研修会への参加・実施	医師	研修会の回数	4回	0回
年5日以上の年次有給休暇取得	医師	一人あたりの取得日数	5日/人以上	0回

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①地域の学術活動や講演会への参加・発表を行います。
- ②近隣医院への訪問を行い、地域のニーズにあった医療を探索します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
学会・研究会・講演会での参加・発表	医師	参加・発表回数	4回	0回
近隣医院への訪問	医師	訪問回数	9回	0回

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	リハビリテーション科 リハビリテーション技術科	総括責任者	科部長 科長	加藤 創太 金野 千帆
—		副責任者	科長代理	大塚 敬三

I 医療の質と効率の視点

【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供
		地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

ICU・CCU・救急病棟において超急性期リハビリテーションを実施します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
ICU・CCUでのリハビリテーション実施単位数	医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士	実施単位数	1,000単位	1,034単位
早期・リハビリテーション加算の導入	医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士	新規加算算定の判定	1件	なし
早期・リハビリテーション加算算定	医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士	加算算定者件数	100件	なし

II 患者満足の視点

【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さん のために尽くす役務の提供	政策的医療の実現
		患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

リハビリテーション専門医師等によるリハビリテーション診察を実施し、計画的にリハが施行出来るよう努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
リハ医等によるリハ診察の実施	医師	診察人数	1,300人	1,348人

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	リハビリテーション科 リハビリテーション技術科	総括責任者	科部長 科長	加藤 創太 金野 千帆
—		副責任者	科長代理	大塚 敬三

Ⅲ 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

指示・実施単位数や加算の積極的な取得により収入を確保します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
リハビリテーション科全体の実施単位数	医師、理学療法士、 作業療法士、言語 聴覚士	単位数	40,000単位	43,651単位
理学療法士の実施単位数	理学療法士	単位数	25,000単位	28,909単位
作業療法士の実施単位数	作業療法士	単位数	9,000単位	9,650単位
言語聴覚士の実施単位数	言語聴覚士	単位数	7,500単位	5,092単位
リハビリテーション総合実施計画書の 作成及び算定	医師、看護師、 理学療法士、作業 療法士、言語聴覚 士	件数	2,300件	2,276件
退院時指導の算定	理学療法士、作業 療法士、言語聴覚 士	件数	1,300件	1,261件

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

疾患別リハビリテーション算定に必要な資格取得者を育成します。
実習生指導に必要な人材を育成します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
心臓リハビリテーション・呼吸器リハビリテーション・がんリハビリテーション算定に必要な資格取得の推奨	理学療法士・作業療法士・言語聴覚士	資格取得者人数	2人	1人
実習指導者資格取得の推奨	理学療法士・作業療法士・言語聴覚士	資格取得者人数	2人	2人

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

学生教育に貢献します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
実習生受入れ	理学療法士・作業療法士・言語聴覚士	実習生受入数	5人	5人

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	放射線診断科	総括責任者	部長 屋代 英樹
—		副責任者	主任医長 小林 真紀子

I 医療の質と効率の視点

【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供
		地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①CT・MRIを初めとする画像診断機器の有効的活用による検査数の増加と、共同利用数の増加を図ります。
 ②画像診断管理加算2体制の維持による臨床医への速やかな検査結果報告による医療の質向上を図ります。
 ③ドクターズクラーク導入によるワークシェアなどによる医師の事務作業時間の短縮、時間外労働の減少を目指します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
CT検査予約待ちの解消の体制を維持する	医師、放射線技師	検査予約待ち日数	即日実施	即日実施
MRI検査予約待ちの短縮を図る	医師、放射線技師	検査予約待ち日数	ルーチン即日実施 精査3日	ルーチン1日 精査5日
紹介患者獲得のための開業医への連携強化	医師、放射線技師 地域連携室	紹介数	委託検査数維持	2,188件
画像診断管理加算2体制の維持	医師	翌診療日読影率	80%以上	96%
医師の事務作業時間の短縮	医師、ドクターズクラーク	時間外労働時間	放射線診断科平均時間外 45時間以下	51時間12分

II 患者満足の視点

【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現
		患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①土曜日・日曜日のMRI委託検査の実施により地域医療へ貢献します。
 ②夜間・休日読影により質の高い救急医療へ貢献します。
 ③緊急IVR体制の確保により安心できる救急医療を提供します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
土曜日・日曜日MRI委託検査の実行	医師・放射線技師	MR検査委託数	MR委託検査維持	711件
夜間・休日読影	医師	夜間休日読影率	80%以上	100%
緊急IVR応需体制維持	医師・放射線技師 看護師	緊急・準緊急IVR件数	60件以上	125件

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	放射線診断科	総括責任者	部長 屋代 英樹
—		副責任者	主任医長 小林 真紀子

Ⅲ 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①大血管センター、血管センターの一員として協力体制の元、ステントグラフト治療、血管形成術を行い、心臓外科・血管外科の入院診療単価の向上を目指します。
 ②IVR-CTを利用した高度な治療の提供により、肝動脈化学塞栓術・肝RFA術の手技を施行し診療単価の向上を目指します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
ステントグラフト治療数	医師	手術数	30件以上	18件
肝動脈化学塞栓術	医師	手術数	40件以上/年	37件
血管形成術	医師	手術数	60件以上/年	81件
肝腫瘍ラジオ波焼灼術・マイクロ波凝固術	医師	手術数	10件以上/年	8件

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①放射線診断科職員の放射線診断専門医、IVR専門医取得・維持を行い、画像診断管理加算2の取得体制やIVR応需体制を維持します。
 ②多職種への注射技術の指導をおこないワークシフトを促進します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
放射線診断専門医維持のための学会参加	医師	参加数	規定の参加ポイントの取得	8回
IVR専門医取得・維持のための学会参加	医師	参加数	規定の参加ポイントの取得	2回
院内にて静脈注射講習会を行い、看護師・臨床研修医師・診療放射線技師の静脈注射技術の向上を図る	医師	講師回数	合計2回	2回
IVR関連の学会発表を行い、関連科を含め他IVR研修希望の常勤医確保を図る	医師	学会発表数	筆頭・共同含め4回	9回

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	放射線診断科	総括責任者	部長 屋代 英樹
—		副責任者	主任医長 小林 真紀子

V 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①学会発表による知見の普及を図ります。
②看護大学校における講義を行い、地域における当院の役割や、放射線診療の実態周知に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
学会発表・論文発表	医師	発表数	筆頭として4回	5回
看護大学校での放射線科講義の実施による教育への協力	医師	講座数	1回	1回

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	放射線治療科	総括責任者	部長	今宮 聡
—		副責任者	主任医長	早田 格

I 医療の質と効率の視点

【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供
		地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①高精度照射症例割合の維持・増加および治療計画期間の短縮を図ります。
- ②光学的患者ポジショニングシステムによるセットアップ精度の向上、CBCTと合わせてIGRT割合の増加を図ります。
- ③左乳癌術後照射の深吸気息止め照射(DIBH)を年度内に開始します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
VMAT(強度変調回転照射)症例数、割合の増加	医師・技師	VMAT症例数、割合	90例、40%	61例、29%
VMATと定位放射線治療の治療計画期間(CT撮影から治療開始まで)の短縮	医師・技師	治療計画期間(日数)	約7日	約10日
左乳癌術後照射の心臓被曝低減のためDIBH(深吸気息止め照射)導入	医師・技師	DIBH症例数	5件	0件
日本放射線腫瘍学会認定施設Bの取得	医師・技師	認定施設B取得	認定施設B取得	認定なし
関連各診療科との症例検討会参加	医師	症例検討会参加継続	2領域継続	2領域(呼吸器、消化器)

II 患者満足の視点

【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現
		患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①患者さんや家族への解りやすい説明をします。
- ②初診から治療開始までの期間を短縮します。
- ③照射に伴うストレスや障害を低減します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
学会作製ビデオなど放射線治療説明の上映継続および改訂	医師	上映継続可否、改訂成否	上映継続、改訂1回以上	上映継続、改訂1回
放射線治療説明書の改訂	医師	改訂数	8件	10件
光学的患者ポジショニングシステムによるマーカースセットアップ	医師・技師	マーカースセットアップ開始	マーカースセットアップ開始	なし
VMATと定位放射線治療の治療計画期間(CT撮影から治療開始まで)の短縮	医師・技師	治療計画期間(日数)	約7日	約7～10日
左乳癌術後照射の心臓被曝低減のためDIBH(深吸気息止め照射)導入	医師・技師	DIBH症例数	5件	0件

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	放射線治療科	総括責任者	部長	今宮 聡
—		副責任者	主任医長	早田 格

Ⅲ 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

治療単価を増加させます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
VMAT(強度変調回転照射)症例数、割合の増加	医師・技師	VMAT症例数、割合	90例、40%	61例、29%
VMATと定位放射線治療の治療計画期間(CT撮影から治療開始まで)の短縮	医師・技師	治療計画期間(日数)	約7日	約10日
左乳癌術後照射の心臓被曝低減のためDIBH(深吸気息どめ照射)導入	医師・技師	DIBH症例数	5件	0件
IGRT(画像誘導放射線治療)の件数増加	医師・技師・医療事務	IGRT算定数	160件	147件
IGRT(画像誘導放射線治療)の請求点数増加	医師・技師・医療事務	IGRT加算の高点数化	平均320点	平均301点

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度(やりがい度)の獲得(職場環境、研修・教育、評価と処遇改善)
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

治療スキルの向上に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
放射線治療関連学会参加	医師・技師	参加回数	3回以上	3回
ユーザーミーティングや治療関係講習参加	医師・技師	参加回数	5回以上 (COVID-19感染状況による)	4回

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献(災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など)
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

市民講座や院外研究会などでの当院放射線治療科に対する認知を進めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
市民講座や院外研究会などへの参加	医師	参加回数	1回以上	1回

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	救急科・救急外科 救命救急センター	総括責任者	救命救急 センター長	葉 季久雄
病棟名	救命救急センター (救急外来・救急病棟)	副責任者	看護師長	河合 清美

I 医療の質と効率の視点

【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供
		地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①救命救急センターとして、「断らない救急医療」を実践します。
 ②生命の危機に瀕した重症患者を受け入れます。
 ③救命救急センター内の職種の垣根を越えた連携を図り、よりよいチーム医療を実践します。
 ④重症患者の治療にあたり、『多職種回診』を行いチーム医療を実践します。
 ⑤地域救急隊との連携を向上させます。
 ⑥地元医師会と連携し、救急医療と在宅医療の連携をはじめます。
 ⑦RRS(rapid response system)の定着をめざします。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
近隣消防本部への挨拶回り	医師・事務(医事課)	訪問回数	2回	2回
救急患者受入数／応需率	医師	受入患者数	9,000人／98.0%	9,494人／98.2%
救急搬送患者入院数／救急搬送患者入院率	医師	受入患者数のうち 入院した患者の率	2,880人／32.0%	2,995人／31.5%
年間重篤患者数（厚生労働省「救命救急センターの充実段階評価」）	医師	重篤患者数	1,150人	1,111人
ハイケアユニット用の重症度、医療・看護必要度の基準を満たす患者の入院割合	医師	重篤患者数	35%	26.7%(特定集中治療室)
救命救急センター会の開催	医師・看護師	救命救急センター会の回数	月1回	月1回
多職種カンファレンスを行う	医師・看護師・薬剤師・リハビリティ技師・MSW・管理栄養士	カンファレンスの回数	週1回	週1回
救急事例検討会の開催	医師・事務(医事課)	開催回数	3回	コロナのため0回
救急医療と在宅医療の連携会議	医師会・医師・事務	会議参加数	1回	コロナのため0回
RRS定着にむけての講習会の開催	医師・看護師	講習会開催回数	2回	未実施
RRS(外来＋病棟)起動件数	医師・看護師	RRS起動件数	20件	5件
院内トリアージ件数の増加	医師・看護師	トリアージ件数	小児360件 成人1,100件	小児213件 成人1,025件

II 患者満足の視点

【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現 患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①救命救急センターとして、「断らない救急医療」を実践します。
 ②救命救急センターとして、救急医療に関する情報を発信します。
 ③接遇を向上させると共に、受診時間の短縮に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
救急隊からの受入を促進する	医師	応需率	98%	98.2%
様々なツール（病院本、Smile!・ホームページ）を通じた広報活動	医師・看護師	情報発信したツール数	1件	0件
接遇を向上させる	医師・看護師	クレーム数	10件未満	医師1件

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	救急科・救急外科 救命救急センター	総括責任者	救命救急 センター長	葉 季久雄
病棟名	救命救急センター (救急外来・救急病棟)	副責任者	看護師長	河合 清美

Ⅲ 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①救急搬送件数を増加させます。
 ②入院患者数(軽症経過観察・重症集中治療)を増加させ、入院稼働額の増加をめざします。
 ③コロナ禍における救急病棟の効率的運用方法を見出します。
 ④救急外来スタッフのコスト意識の向上を図ります。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
救急患者受入数増加 とくに重症患者受入数増加(救急外来)	医師	受入患者数	9,000人	9,494人
重症患者を中心とした入院管理を行い、入院稼働額をあげる	医師	入院診療単価	115,000円 (救急科・救急外科)	救急科 140,820円 救急外科 113,972円
重症患者を中心とした入院管理を行い、入院稼働額をあげる	医師	入院患者数	100人・40人／年 (救急科・救急外科)	救急科 198人 救急外科 47人
救急病棟の入院稼働率(利用率)上昇	医師・看護師・事務	病床利用率	60% (空床の3床を運用しているとして80%)	57.8%
救急病棟の入院稼働額上昇	医師・看護師	入院診療単価	140,000円	171,213円

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度(やりがい度)の獲得(職場環境、研修・教育、評価と処遇改善)
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①院内研修会への参加により、他分野の見識を深めます。
 ②専門職としての自己研鑽に努め、教育や研究活動に参加します。
 ③救命救急センターとして救命処置の院内教育に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
院内研修会への参加	医師・看護師	参加数	1人あたり4回	1人あたり2回
看護研究の立案、実践	看護師・医師	行う看護研究の数	1件	0件
働きやすい職場環境の調整	看護師	離職率	5%未満	0
院外研修会への参加	医師・看護師	参加数	1人あたり1回	1人あたり1回
JTASを受講する	看護師(ER)	参加数	2人	0人
院内BLSの開催	医師・看護師	院内BLSの開催回数	月1回(8月以外)	月1回(8月以外)

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	救急科・救急外科 救命救急センター	総括責任者	救命救急 センター長	葉 季久雄
病棟名	救命救急センター (救急外来・救急病棟)	副責任者	看護師長	河合 清美

V 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①救急ワークステーション(救急WS)を通じて、重症傷病者に対する病院前からの医療に参画します。
 ②災害に即応できる体制、能力を構築します。③救急救命士の実習を受入れ、育成に努めます。
 ④学生教育を受入れ、学生に救急医学に関心を持ってもらいます。⑤認定看護師・看護師の能力を活かした健康教育を行います。
 ⑥論文、学会発表を通じ、academic emergency physician, academic acute care surgeon, academic ER nurse としての地位を確立します。
 ⑦医療系学生もしくは中高生へ向けた「救命救急センター」紹介・体験企画を行い、興味・関心を持ってもらいます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
救急WSでの出動	医師・看護師	救急WS出動件数	150件	142件
災害訓練への参加	医師・看護師・薬剤師・技師	訓練参加数	2件	0件
救急救命士の病院実習を受け入れる	医師・事務	受入れ救急救命士数	85人	76人
医学部学生の臨床実習を受け入れる	医師	受入れ学生数	32人	33人
論文発表、学会発表を通じたacademismの獲得	医師	論文数	1(共著者含む)	7(共著者含む)
論文発表、学会発表を通じたacademismの獲得	医師・看護師	学会研究発表数	8(共同演者含む)	39(共同演者含む)
認定看護師・看護師による健康講座の開催 市民への講演・看護学生への講演	看護師	講演数	3回	2回
医療系学生(中高生)向け見学企画『ひらつかER 救命救急センター 24時』の開催	医師・看護師・事務	開催数	1回	0回

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	麻酔科	総括責任者	部長	中川 基人
病棟名	手術室	副責任者	医長	唐木田 曜

I 医療の質と効率の視点

【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供
		地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

質の高い高度医療の提供に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
麻酔科管理手術件数の増加	医師	麻酔科管理手術件数	3,300件	3,085件
全身麻酔件数の増加	医師	全身麻酔件数	3,000件	2,829件

II 患者満足の視点

【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現
		患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

患者さんの痛みが少ない麻酔を行います。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
神経ブロックの実施	医師	神経ブロック実施件数	250件	206件

III 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

職員給与費対医業収益比率の改善に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
業務調整による非常勤医師時間外勤務の削減	医師	年間時間外勤務時間数	369時間(10%減)	410時間

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	麻酔科	総括責任者	部長	中川 基人
病棟名	手術室	副責任者	医長	唐木田 曜

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

不慣れな麻酔科医が困惑する程、開胸する心臓血管外科手術の麻酔準備は複雑であり、学習会を看護師に行い、介助の理解を深め、必要性の高いことから手助けしていくことが出来るようにします。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
開胸する心臓血管外科の麻酔準備の学習会	医師	開催回数	1回	0回

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

学会活動を行い、学術面での理解を深めるだけではなく、機構専門医の更新、指導医の資格を得て、専修医確保につなげます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
麻酔関連学会の参加、講義視聴	医師	参加数、受講数	10回	5回

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	看護部	総括責任者	看護部長 稲村 ほづみ
—		副責任者	副看護部長 山中 享子 千葉 多恵子

I 医療の質と効率の視点

【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供
		地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①入退院支援の強化による質の向上および入院期間の適正化に努めます。
②高度急性期、急性期医療を考慮した看護配置を検討します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
PFMシステムの確立により、効率的な入退院調整を行う。	入退院支援室 看護部	・入院前面談件数 ・入院期間尺度Ⅱ以内の退院率	・入院前面談2000件以上 ・入院期間尺度Ⅱ以内退院率70%以上	・入院前面談430件 ・入院期間尺度Ⅱ以内退院率67.1%
チーム医療の推進により、多職種連携で診療報酬取得や看護の質の向上につなげる。	看護部 診療部 他職種	・診療報酬算定加算 ・抑制帯使用率	・認知症ケア加算、周術期に関する加算等 ・抑制帯使用率15%以下	抑制帯使用率32%
効率的で適正と考える看護人員配置の検討を行う。 (入退院支援室と外来、5D小児産科エリアの統一、5AB病棟の単独開床)	看護部 入退院支援室	・統一に向けた検討会	月1回	0件

II 患者満足度の視点

【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現
		患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

地域との看看連携の強化により患者満足度の推進に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
地域看護職との協働、在宅同行訪問への参加	特定・認定看護師 外来看護師 入退院支援室	・在宅患者訪問看護指導料、退院前後訪問指導料算定数 ・再入院率	24件/年	0件

III 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

看護職員の意識改革【自覚と自律】を進め、withコロナにおける更なる新入院患者の受入に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
PFMシステムを活用し、効率的に新規入院患者を受入れる	看護部 入退院支援室	新規入院患者数	新規入院患者数 10,300人	新規入院患者数 9,212人
診療報酬改定にともない、看護加算を積極的に取得する行動を計画する(各部署で1つ以上)	診療部・看護部	認知症ケア加算算定件数 抑制帯使用率	認知症ケア加算1取得 抑制帯使用率10%以下	認知症ケア加算3取得 抑制帯使用率28%
5AB病棟を効率的に活用し、新規入院ベッドを確保する	看護部 経営企画	・運用病床数 ・病床稼働率 ・人員配置検討	350床(85%以上)	311床(79%)

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	看護部	総括責任者	看護部長 稲村 ほづみ
—		副責任者	副看護部長 山中 享子 千葉 多恵子

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

チーム医療や働き方改革に積極的に貢献できる看護師の育成に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
特定・認定看護師育成の育成計画立案（特に認知症）	看護部	特定認定看護師養成学校への合格者数	3人（認知床ケア、重症集中、嚥下、感染等）	2人（乳がん、皮膚排泄ケア認定看護師）
次世代の看護管理者育成（師長補佐）	看護部	看護管理研修および診療報酬に関する研修への参加回数	看護管理・診療報酬に関する研修参加2回以上	0

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

看護活動を通して病院を知ってもらえる情報発信を行います

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
看護実践の成果を各学会において発表報告	看護管理者 特定認定看護師 認定看護師	学会発表数	4件	3件
認定看護師等が地域に向けて講演と講座で市民への健康を促す	看護管理者 特定認定看護師 認定看護師	地域や看護学校への講義、講演数	6件	3件
地域看護職との交流による広報活動 ・訪問看護ステーションへの訪問 ・地域医療会議への参加	看護部長 副看護部長 看護師長	訪問・参加回数	24件	0件
動画を用いた看護の情報発信	副看護部長 特定・認定看護師	ホームページ上での動画配信	2件	0件

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	全科	総括責任者	室長	中川 基人
病棟名	ICU,CCU	副責任者	師長	高橋 しのぶ

I 医療の質と効率の視点

【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供
		地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

質の高い高度な医療を提供するICU,CCUの運営を行います。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
早期(入室後48時間以内)に栄養が開始できる	医師・看護師・栄養士	2日以上在室患者の実施率(消化器外科以外)	90%	—
早期(入室後48時間以内)にリハビリが開始できる	医師・看護師・栄養士リハビリ技師	実施率	90%	—

II 患者満足度の視点

【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現
		患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

ICU,CCUとして患者・ご家族から信頼、安心される環境を提供します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
患者、ご家族の要望を十分に聴取し、丁寧な説明を行う。	医師・看護師	お褒めの言葉	10件	6件

III 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

病院収益へ貢献します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
病床利用率の向上	医師・看護師	病床利用率	100%	65.2%
重症度、医療、看護必要度のハイケア加算基準をクリアする	医師・看護師	A項目3点B項目4点をクリアする患者割合	93.7%	93.7%

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	全科	総括責任者	室長 中川 基人
病棟名	ICU,CCU	副責任者	師長 高橋 しのぶ

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

集中ケアにおける質の高い看護を提供できる看護師を育成します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
院内、院外研修への積極的参加	看護師	研修参加回数	平均6回	平均4回
急変時の対応研修の実施	看護師	研修実施数	1回	1回

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①市民の健康維持、向上のために認定看護師が地域での活動を行います
- ②急性期・周術期医療に関心のある学生の教育に貢献します

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
認定看護師による市民へむけての市民講座を行う	認定看護師	講演実施数	1回	1回
周術期に関わる看護学生の受け入れ	看護師	受け入れ数	12名	0名

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	薬剤科	総括責任者	部長 高田 みゆき
—		副責任者	科長 門倉 徹

I 医療の質と効率の視点

【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供
		地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

適正かつ経済的な薬物使用に寄与します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
臨時注射の払出し方法の変更を検討する	薬剤師、医師、看護師	臨時注射薬品の使用状況把握	注射オーダーに基づく払出しの導入	払出伝票による払出し
外来化学療法におけるバイオ後続品の採用を検討	医師、薬剤師	後続品の使用本数	対象患者へ実施	7本
薬剤師の人材確保に努める	薬剤師、事務職	応募数	募集数以上の応募数の確保	1人

II 患者満足度の視点

【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さん のために尽くす役務の提供	政策的医療の実現
		患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

患者さんや地域市民のみなさんへ薬の正しい服用を推進します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
服薬指導(入院患者薬剤管理指導料、入院患者退院時薬剤情報管理指導料)の実施	薬剤師	服薬指導算定件数(入院服薬指導算定件数＋退院指導算定件数)	13,000件	12,665件
薬薬連携の推進	薬剤師、医師、看護師、病診連携、保険薬局	地域かかりつけ薬局との連携を図る	ホームページ改訂	ホームページ改訂(乳腺外科)

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	薬剤科	総括責任者	部長 高田 みゆき
—		副責任者	科長 門倉 徹

Ⅲ 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

- ・薬品購入費の削減に努めます。
- ・服薬指導の積極的な実施により収入を確保します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
服薬指導(入院患者薬剤管理指導料、入院患者退院時薬剤情報管理指導料)の実施	薬剤師	服薬指導算定件数(入院服薬指導算定件数＋退院指導算定件数)	13,000件	12,665件
外来化学療法におけるバイオ後続品の採用を検討	医師、薬剤師	後続品の使用本数	対象患者へ実施	7本

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度(やりがい度)の獲得(職場環境、研修・教育、評価と処遇改善)
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

院内職員に学習の機会を提供します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
医薬品安全管理研修会の開催	薬剤師	講演回数	年間1回	1回

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献(災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など)
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ① 学期発表など学術活動の充実を図ります。
- ② 情報発信により、地域貢献に取り組みます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
実務実習受入	薬剤師	学生実習受入数	6人	6人
院外薬局への講習会の開催	薬剤師、医師	講習回数	5回	3回

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	放射線技術科	総括責任者	科長 石川 修二
—		副責任者	科長代理 河並 昭彦

I 医療の質と効率の視点

【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供
		地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①地域医療連携で医療機器の共同利用を推進します。
- ②高精度治療IMRTの安定的運用に努めます。
- ③治療の技術推進に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
医療機器の委託検査推進(CT,MR,RI)	放射線技術科、放射線診断部、地域連携室	委託検査数	1,800件	1,802件
高精度治療IMRT(VMAT)の推進	放射線技術科、放射線治療部	患者数	70件	64件
深吸気息どめ乳房照射の導入	放射線技術科、放射線治療部	患者数	10人	0人

II 患者満足の視点

【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現
		患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①急性期の疾患に即時対応できる技師を育成します。
- ②放射線線量を管理し適正な線量の検査に努めます。
- ③放射線技術科職員の接遇向上に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
新規導入のVitrea(ワークステーション)のソフトで、頭部CTで急性期脳梗塞に有用なperfusion検査を滞りなく夜勤勤務技師全員に習熟	放射線技術科	夜勤技師の習熟率	100%	0%
新規導入機器の線量管理	放射線技術科	線量管理達成率	100%	80%
患者様への接遇向上	放射線技術科	科内検討回数	3回	3回

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	放射線技術科	総括責任者	科長 石川 修二
—		副責任者	科長代理 河並 昭彦

Ⅲ 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①MRの委託検査数を保持し収入を安定させます。
- ②施設基準、加算に対して獲得できるよう努めます。
- ③放射線機器の修理費削減します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
放射線治療系の施設基準の保持	放射線技術科、放射線治療部、看護部	現在の加算体制の維持	現在の加算体制の維持	加算体制維持
MR3Tの施設基準の申請	放射線技術科、放射線診断部	導入時施設基準獲得	導入時施設基準獲得	なし
3Tの頭部撮影加算の申請	放射線技術科、放射線診断部	導入時施設基準獲得	導入時施設基準獲得	なし
放射線技術科での修理費の削減	放射線技術科	修理定価から15%減	修理費15%減	19%

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①業務充実のため専門資格の向上に努めます。
- ②院外講習会などに積極的に参加し専門意識の向上に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
技師の専門資格保持推進	放射線技術科	延べ人数	38人	37人
各学会、講習会(e-learning)延べ参加数	放射線技術科	延べ人数	60人	55人

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①放射線技師学校の臨床実習生の学生を育成します。
- ②学会発表での学術活動を行います。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
放射線技師学校の臨床実習生の受け入れ	放射線技術科	人数	2人	4人
各学会、講習会の発表数	放射線技術科	発表数	2件	1件

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	臨床工学科	総括責任者	科長 熊澤 義雄
—		副責任者	主任医療技師 中西 利基

I 医療の質と効率の視点

【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供
		地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①医療機器の安全使用に努めます。
②診療科連携を図ります。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
医療機器を安心使用できる体制(保守・点検の実施)	臨床工学技士	管理機器点検数	15,750件	15,059件
医療機器を安心使用できる体制	臨床工学技士	病棟ラウンド数	5,100件	5,019件
医療機器を安心使用できる体制(コンシェルジュ活動)	臨床工学技士	コンシェルジュ活動数	45件	40件
診療科の業務依頼への初期対応	臨床工学技士	依頼への返答数	50%	44.10%
医療機器安全研修会(web)の実施	臨床工学技士	参加人数	250名	102名

II 患者満足度の視点

【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現
		患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①患者満足度を高めます。
②緊急時の対応を高めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
わかりやすい情報発信を行います	臨床工学技士	病院ホームページ更新数	2回	2回
血液透析用内シャントの育成を支援します	血管外科医師／臨床工学技士	育成患者数	30名	26名
非透析日に対応します	医師／看護師／臨床工学技士	対応件数	32名	29名
非心臓カテーテル検査日に対応します	医師／看護師／臨床工学技士	対応件数	80名	74名
非心臓血管手術日に対応します	医師／看護師／臨床工学技士	対応件数	16名	16名

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	臨床工学科	総括責任者	科長 熊澤 義雄
—		副責任者	主任医療技師 中西 利基

Ⅲ 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

病院経営を意識した業務実施に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
血液透析用内シャントの育成を入院日数の最適化につなげます。	医師/看護師/臨床工学技士	入院日数	18日	19日
心臓遠隔モニタリングを支援します	医師/臨床工学技士	支援患者数	12名	10名
緊急心臓カテーテル治療を支援します (door to balloon time)	医師/看護師/放射線技術科/臨床工学技士	対応人数	50名	45名
呼吸サポートチーム活動を行います	医師/看護師/理学療法士/臨床工学技士	回診患者数	113名	107名
スタッフミーティングを就業時間内に実施します	臨床工学技士	就業時間内実施割合	60%	53.30%

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①医療機器の安全安心を学ぶ機会を提供します。
- ②研修会に参加し知識技術の向上を図ります。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
医療機器安全研修会(ハンズオン)の開催します	臨床工学技士	参加人数	180名	78名
院内外研修会等に参加します	臨床工学技士	参加回数	5回/名	4.1回/名
体外循環技術認定士の維持・取得を行います	臨床工学技士	参加回数	2回	2回

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	臨床工学科	総括責任者	科長 熊澤 義雄
—		副責任者	主任医療技師 中西 利基

V 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①臨床工学技士を目指す学生の育成に貢献します。
②研究発表など学術活動の充実を図ります。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
臨床工学技士を目指す学生の育成に貢献する	臨床工学技士	受入人数	4名	6名
救急救命士の実習協力	医師／臨床工学技士	受入人数	18名	17名
研究発表	臨床工学技士	発表数	1回	0回
院内イベントの参加（ブルーサークルフェスタ）	医師／看護師／臨床工学技士等	参加回数	1回	—

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	臨床検査科	総括責任者	科長	關口 博子
—		副責任者	科長代理	久保谷久子 内田正則 間地知子

I 医療の質と効率の視点

【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供
		地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①新型コロナウイルス感染症に対する安定的な検査体制を構築します。
②術前血管エコー検査を拡充します。

	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
新型コロナウイルス感染症対応人員の確保	臨床検査技師	検査可能な技師数	11人	9人
術前脈管エコー検査件数増加(緊急整備固定加算に対応する)	医師・臨床検査技師	血管エコー件数	DVT 640件	1188件 DVT568件

II 患者満足度の視点

【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さん のために尽くす役務の提供	政策的医療の実現
		患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

患者さんが安心して採血に望めるような接遇と教育を行います。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
新入職員採血訓練	臨床検査技師	患者満足度調査のポイントアップ(スムーズ採血と患者対応)	4.8	4.6

III 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

委託検査料を削減します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
委託内容の見直しにより院内検査に変更する。	臨床検査技師	委託件数・委託検査料	46500件 60000000円	47077件 65804858円

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	臨床検査科	総括責任者	科長	關口 博子
—		副責任者	科長代理	久保谷久子 内田正則 間地知子

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①新人教育を行います。
- ②血液認定技師・超音波検査士・細胞検査士を養成します。
- ③職員の能力向上を支援します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
①各部署における新人教育及び当直訓練	臨床検査技師	新人研修評価シートによる評価	各部署の目標値/当直業務ができるように	
②認定試験等の挑戦	臨床検査技師	認定試験合格人数	2人	0人
③学会参加	臨床検査技師	学会参加回数	平均3回/1人	平均1.5回/1人

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①学生教育を行います。
- ②地域貢献活動を行います。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
臨地実習	臨床検査技師	受入人数	2人	3人
ホームページに検査業務の一般向け紹介や検査内容・イベント紹介など	臨床検査技師	更新回数	2回	0回

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	栄養科	総括責任者	科長	古屋久美子
—		副責任者	主管	菅谷 稚夏

I 医療の質と効率の視点

【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供
		地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①質の高い栄養計画の立案、実施に努め、チーム医療に貢献します。
②地域の栄養連携を積極的に実施します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
入院患者の食物アレルギーインシデントの削減	管理栄養士、看護師、医師、委託給食会社	件数	0件	23件
栄養情報提供加算取得数	管理栄養士	件数	50件	30件
早期栄養介入管理実施による経腸栄養 (tube feeding) 開始数	管理栄養士、看護師、医師	人数	100件	未調査

II 患者満足度の視点

【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さん のために尽くす役務の提供	政策的医療の実現
		患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

おいしく、治療に結びついた安全な給食提供に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
ホームページの更新	管理栄養士	更新回数	2回	1回
治療食啓蒙のための食イベント開催	管理栄養士	開催回数	1回	0回

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	栄養科	総括責任者	科長	古屋久美子
—		副責任者	主管	菅谷 稚夏

Ⅲ 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①給食材料の見直しを行い、食材費の節約に努めます。
②病院経営を意識した業務実施に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
給食材料費の維持	管理栄養士、委託給食会社	食材費	830円/日/患者一人	801円/日/患者一人
早期栄養介入管理加算取得対象数 ICU	管理栄養士、看護師、医師	人数	300人	0人
早期栄養介入管理加算取得対象数 救急病棟	管理栄養士、看護師、医師	人数	600人	0人
入院栄養指導実施数	管理栄養士	実施数	1,000件	874件

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①病院運営を理解するため、院内研修会に積極的に参加します。
②業務充実のための専門資格の取得に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
専門資格取得・保持・更新へ繋がる研修会への参加	管理栄養士	参加数	27件	未調査
専門資格取得・保持・更新への取り組み	管理栄養士	専門資格数	14件	14件

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①医療分野で活躍できる管理栄養士・学生の育成に努めます。
②地域住民へ健康な食生活情報の発信に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
地域健康教室等の出張講座	管理栄養士	開催数	2回	2回
臨床栄養学実習受け入れの実施	管理栄養士	学校数、人数	5校、10人	5校、10人

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	医療安全管理室	総括責任者	室長 杉木 正
		副責任者	室長代理 片岡 誠

I 医療の質と効率の視点

【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供
		地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

安全で質の高い医療を提供する環境を整備します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
リスク管理を推進する	医療安全管理統括責任者 医療安全管理者 セーフティマネージャー セーフティスタッフ	インシデント・アクシデントレポート報告件数	3,000件以上	3,278件
		レベル3以上報告件数	50件以内	28件
		レベル0報告件数	1,000件以上	1,354件
		インシデント・アクシデントレポート第一報報告平均日数	2日以内	1.16日

II 患者満足度の視点

【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現
		患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

医療事故発生を防止するよう努め、患者さんが安心して受診、療養できる環境を整えます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
レベル3b以上のアクシデント報告数を前年度以下とする	医療安全管理統括責任者 医療安全管理者 セーフティマネージャー セーフティスタッフ	レベル3b以上のアクシデント報告数	2件以下	2件
		再発防止策の提案	2種	5種
入院患者 転倒・転落発生率	医療安全管理統括責任者 医療安全管理者 セーフティマネージャー セーフティスタッフ	日本病院協会QI 転倒・転落発生率 中央値	0.00266	0.0013
入院患者 転倒・転落損傷発生率(レベル2以上)		日本病院協会QI 転倒・転落発生率(レベル2以上) 中央値	0.00056	0.00021
入院患者 転倒・転落損傷発生率(レベル4以上)		日本病院協会QI 転倒・転落発生率(レベル4以上) 中央値	0.00005	0.00003

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	医療安全管理室	総括責任者	室長 杉木 正
		副責任者	室長代理 片岡 誠

Ⅲ 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①医療安全対策に関する施設基準を維持します。
②医療安全に関わる加算・管理料を取得し、安全対策を強化します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
医療安全対策地域連携対策加算の取得	医療安全管理部門	医療安全対策相互連携施設数	6施設	6施設
ガイドラインに準じた肺血栓塞栓症予防実施	医療安全管理部門	肺血栓塞栓症予防管理料算定件数	2,000件	1,923件
報告書管理体制加算取得 準備	医療安全管理部門	医療安全対策に係る研修受講	臨床検査技師・放射線技師 各1名の受講	(なし)
二次性骨折予防継続管理料取得 準備	医療安全管理部門	骨粗鬆症に対する知識とFLS意義について職員研修回数	1回以上実施	(なし)

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①医療安全意識向上に必要とされる職員研修を開催します。
②研修会・学会等に参加し知識・技術の向上に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
医療安全研修の開催	医療安全管理部門	研修回数	7回	7回
専門医制度研修の開催	医療安全管理部門	研修回数	1回	1回
院外研修・学会への参加	医療安全管理統括責任者 医療安全管理者	参加回数	3回/人	2回/人

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	医療安全管理室	総括責任者	室長 杉木 正
		副責任者	室長代理 片岡 誠

V 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①医療安全に関する情報を提供し地域貢献に取り組めます。
②地域医療機関と医療安全に関わる連携・相互評価を行い医療安全意識の向上に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
地域医療機関 医療者向け医療安全研修の開催	医療安全管理部門	研修回数	1回	(なし)
医療安全対策地域連携カンファレンスの開催	医療安全管理統括責任者 医療安全管理者	カンファレンス開催数	5回	(なし)
医療安全対策地域連携相互評価の実施	医療安全管理部門	相互評価実施回数	4回	4回

職員行動計画書

【令和4年度】

室名	感染対策室	総括責任者	室長 石井 美千代
—		副責任者	

I 医療の質と効率の視点

【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供
		地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ① 医療関連感染の予防に努め感染防止策を啓発します。
② 抗菌薬の適正使用を推進します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
術後予防抗菌薬の適正使用	AST	ガイドラインの遵守率	80%以上	57%
広域抗菌薬の適正使用	AST	広域抗菌薬延べ使用日数	昨年度より改善	5,881日
尿路カテーテル感染防止	ICT/AST	尿路カテーテル感染率	1.5%以下	1.80%
CVカテーテル感染防止	ICT/AST	CVカテ感染率	1.5%以下	1.67%

II 患者満足の視点

【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現
		患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

患者さんや市民の皆さまに向けて感染防止策をわかりやすく発信します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
市民向け講座の実施	医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師	市民向け講座の回数	3回	6回

III 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

医療関連感染による入院期間の延長を防ぎます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
全員対象研修の実施	ICT	受講率	100%	100%
部門別研修の実施	ICT	実施回数	各部署1回以上	11回

職員行動計画書

【令和4年度】

室名	感染対策室	総括責任者	室長 石井 美千代
—		副責任者	

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

職員の能力向上に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
学会、研修会の参加	看護師・薬剤師・臨床検査技師	参加回数	3回	—

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

患者さんや市民の皆さまに向けて感染防止策をわかりやすく発信します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
地域医療機関への訪問指導	医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師	訪問指導回数	10回	6回

職員行動計画書

【令和4年度】

室名	入退院支援・医療相談室	総括責任者	室長 女屋 早苗
—		副責任者	

I 医療の質と効率の視点

【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供
		地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

安全・安心な医療を提供できるよう入退院支援を強化します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
人材を育成し、面談室を効率的に使用することで、PFM対象患者を拡大する。	入退院支援・医療相談室スタッフ全員、入退院支援看護師、医師、看護師	入院時支援加算1算定件数	150件/月	平均30件/月 (R3年3月は77件) 363件/年
患者・家族が安心して退院後の療養の場に移れるよう退院支援を行う。	入退院支援・医療相談室スタッフ全員、入退院支援看護師、医師、看護師	入退院支援加算1算定件数	500件/月	平均272件/月
必要な患者に介護支援等連携指導や退院時共同指導を行う。	入退院支援・医療相談室スタッフ全員、入退院支援看護師、医師、看護師	介護支援等連携指導料算定件数 退院時共同指導料2算定件数	介護支援等連携指導料算定件数: 20件/月 退院時共同指導料2算定件数: 15件/月	5件/月、60件/年 2件/月、25件/年

II 患者満足の視点

【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現
		患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①地域の関係機関と連携し、患者さん・家族が暮らしやすい地域包括ケアシステムの構築を推進します。
②地域と連携して患者さん・家族に安心安全な医療を提供します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
後方連携機関に計画的に訪問し、患者さんにとって有益な連携を図る。	入退院支援・医療相談室スタッフ、入退院支援看護師、医師、事務職員	面談件数	25施設以上と年3回以上面談する。	病院、訪問診療医、訪問看護、施設他26件の機関と年3回以上面談を行った
シームレスなケアが提供できるよう外来、病棟、在宅の看一連携を強化する。	入退院支援・医療相談室スタッフ、入退院支援リンクナース、看護師	情報交換会開催 外来と病棟の連携システム構築と稼働	訪問看護ステーションとの情報交換会開催1～2回/年 外来と病棟の連携システム構築と稼働	—
患者さんが安心して当院の治療を受けられるようがん相談支援センターの充実を図ります。	緩和ケア認定看護師、入退院支援・医療相談室スタッフ	がん相談件数	300件/年	198件/年
専門的な研修を受けた看護師による訪問看護を提供します。	皮膚・排泄ケア認定看護師、緩和ケア認定看護師	訪問件数	10件/年	—
救命救急医療における自殺企図患者等に対する支援の充実を図ります。	リエゾンチーム 入退院支援・医療相談室	精神疾患診断治療初回加算算定件数	20件/年 (前年度支援数17件を参考に)	—

職員行動計画書

【令和4年度】

室名	入退院支援・医療相談室	総括責任者	室長 女屋 早苗
—		副責任者	

Ⅲ 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

経営に参画する意識をもち、貢献します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
入退院支援関連の診療報酬算定を漏れなく行う	入退院支援・医療相談室、入退院支援リクナーズ、医師、看護師	入院時支援加算1算定件数	150件/月	30件/月
		入退院支援加算1算定件数	500件/月	272件/月
		介護支援等連携指導料算定件数	20件/月	5件/月
		退院時共同指導料2算定件数	15件/月	2件/月

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

職員の能力向上と病院経営の理解に努めます

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
学会や院外研修に参加する	入退院支援・医療相談室常勤看護師、MSW、PSW、公認心理師	参加回数	1人2回以上	—

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

市民の健康・医療に関する関心を高めることに貢献します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
市民・患者サービスの向上のため、市民向け講座の開催	入退院支援・医療相談室スタッフ全員	開催数	1回/年	—

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	経営企画課	総括責任者	課長	相澤 史幸
—		副責任者	課長代理 担当長	千葉 伸吾 高梨 一広

I 医療の質と効率の視点

【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供
		地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①平塚市民病院将来構想を着実に推進します。
- ②適正に病院会計業務を遂行します。
- ③院内への将来構想の理念の浸透に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
行動計画策定のためのワークショップHCHの運営管理	事務職	次年度に向けた提案	完了	完了
医療情報システム導入(更新)事務 (令和5年度まで継続)	事務職	スケジュールどおりの進捗(年度末時点)	スケジュールどおりの進捗 (契約～操作研修実施)	—
手術支援ロボット導入事務	事務職	運用開始	完了	—
診療録の質的監査の実施	事務職	監査の実施	2回	—

II 患者満足度の視点

【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現
		患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

患者、市民に対して、積極的に情報を発信します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
病院広報誌「SMILE！」の発行	医師、看護職、医療技術職、事務職	発行回数	4回	4回
病院PR用動画の作成 (総合、募集3種(看護師、臨床研修医、薬剤師))	医師、看護職、医療技術職、事務職	作成種類数	4種類	—
病院PR用パンフレットの発行 (総合、周産期、個室、ロボット)	医師、看護職、医療技術職、事務職	発行種類数	4種類	1種類
外部媒体(タウン紙)への広告・記事掲載 (ロボット導入時)	医師、看護職、医療技術職、事務職	掲載地域数	3地域以上	—
市民健康講座の開催 (院内、オンライン)	医師、看護師、医療技術職、事務職	開催回数	年4回	—

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	経営企画課	総括責任者	課長	相澤 史幸
—		副責任者	課長代理 担当長	千葉 伸吾 高梨 一広

Ⅲ 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①事業運転資金を確保します。
- ②経営健全化のため、経営改善を実施します。
- ③「(仮称) 公立病院経営強化プラン」の策定を進めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
年度別重要目標の設定と数値管理	事務職	目標設定とモニタリング	完了	完了
(仮称) 公立病院経営強化プランの策定 (令和5年度まで継続)	事務職	策定の進捗状況	病院運営審議会での1次案の提示	—

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

院内外の研修に積極的に参加することで、職員の能力向上を図ります。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
経営マネジメント全般、職員行動計画の策定 やデータ分析に関する研修会等への参加	事務職	研修会等への参加	年1回以上	1回
経理知識の向上を図るための研修会等への参加	事務職	研修会等への参加	年1回以上	1回
医療情報システムの知識、IT技術を深めるため、 システム更新や保守、新技術等の情報収集	事務職	研修会等への参加	年1回以上	—
院内研修会への参加	事務職	参加数	1人2回以上	3回

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①持続的な病院の健全経営により、公立病院が担うべき役割を果たします。
- ②病院経営の透明性の向上を図ります。
- ③患者、市民に対して、積極的に情報を発信します。
- ④災害に対応できる体制を構築します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
市民健康講座の開催【再掲】	医師、看護師、医療 技術職、事務職	開催回数	年4回	—
病院の取組について院内外に発信する(学会 等)	事務職	発表数	1回	1回

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	病院総務課	総括責任者	課長	野上正志
—		副責任者	課長代理	高田誠二 木村明智

I 医療の質と効率の視点

【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供
		地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

効率的な医療の提供のため、病院組織を見直します

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
センター機能等の整理と組織的位置づけ	医師、事務職	センター機能等の位置づけの成文化	成文化(要綱など)完了	—

II 患者満足の視点

【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さん のために尽くす役務の提供	政策的医療の実現
		患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

療養環境の向上、提供する診療機能の向上を目指します

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
診療機能向上のための機器整備	医師、医療技術職、 看護職、事務職	手術支援ロボット、320 列CT等の導入と稼働	4件	—
患者への診療機能向上のためのMRI整備	医師、医療技術職、 看護職、事務職	MRI2台体制の稼働	2件	MRI発注、改修工事着工

III 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

効果的な資材調達の実施及び働き方改革の推進で、健全経営の実現に努めます

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
SPD業者との調達協議及び診材の見本市開催	医師、薬剤師、事務職	開催回数	4回	3回
時間外削減と職員の健康維持のため、ノー残業デーの実施	事務職	課員全員帰宅回数	12回	6回

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	病院総務課	総括責任者	課長	野上正志
—		副責任者	課長代理	高田誠二 木村明智

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

病院事業の発展のため、職員の能力向上を目指します

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
事務職向け研修会への積極的な参加	事務職	事務職向け研修会参加回数	4回/人	2回/人 (感染対策研修・医療安全研修)
病院フォーラムでの発表	事務職	発表数	2件	1件

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

市民への医療情報の提供と病院周辺環境維持に努めます

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
出前講座（公民館）の開催	医師、医療技術職、看護職、事務職	公開講座開催数	12回	10回
敷地周囲の清掃活動	事務職	活動回数	6回	—

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	医事課	総括責任者	課長	田丸 勝巳
—		副責任者	担当長	近藤 俊男 田邊 高達 芦野 義明

I 医療の質と効率の視点

【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供
		地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①医療現場における事務の体制強化を図ります。
②医療の質の向上と効率化を図ります。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
医療事務の外来・入院部門の体制強化(医療の質の向上)のため委託業者の選定	事務職	実施有無	有	—
クリニカルパス利用の促進	事務職	パス利用数	3,300件	3,009件
連携医療機関への訪問(医師同伴件数を増やす)	事務職、医師、看護師、MSW、PSW	年間件数	150件(うち医師同伴30件)	120件(うち医師同伴20件)
連携先医療機関への情報発信の強化	事務職	情報発信回数	4回／年	3回

II 患者満足度の視点

【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現
		患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①患者ニーズを捉え、満足度の高い医療の提供を図ります。
②当院の医療提供体制を分かりやすく発信します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
患者満足度調査の実施	事務職	総合評価点	入院 92点以上 外来 85点以上	入院 90.79点 外来 82.4点
「疾患・治療の説明書」の新規作成	医師、事務職	新規作成数	2種類	0種類

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	医事課	総括責任者	課長	田丸 勝巳
—		副責任者	担当長	近藤 俊男 田邊 高達 芦野 義明

Ⅲ 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①施設基準の取得を推進します。
②コスト意識を持って経営に参画します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
新規施設基準の取得を含む診療単価の向上	事務職	件数、入院診療単価	5件 80,000円	2件
委託業者の精度調査実施の管理	事務職	回数	2回	2回
医業未収金徴収の業者委託	事務職	未収金額	前年度比3%減	—
クリニック、病院からの紹介予約件数	事務職	受入件数	外来225件/月 検査210件/月	外来 213件/月 検査 198件/月

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①「人」としての質と「組織」としての質を高めることができる風土づくりを推進します。
②委託業者への研修をします。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
院外の研修会に参加	事務職	件数	1人につき年1回	—

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

積極的に地域活動や人材育成などの社会貢献活動に参加協力します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R3実績
救急救命士病院実習受入人数	事務職	人数	毎年55人以上	76人